中津市立中津市民病院

初期臨床研修プログラム

令和８年４月

中津市立中津市民病院初期臨床研修プログラム

Ⅰ　プログラムの名称　：　中津市立中津市民病院初期臨床研修プログラム

Ⅱ　プログラムの目的およびその特徴について

１．　このプログラムでは、新医師臨床研修制度の到達目標のなかで、特に行動目標である「医療人として必要な基本姿勢・態度」を身につけるために、スーパーローテート方式による２年間の初期研修を行う。

２．　総合的、全人的な幅広い診察能力を有する医師の養成を目指すとともに、教育をベースにした一流の病院づくりを臨床研修の目標とする。
　経験目標に関しては、経験すべき診察法・検査・手技、ならびに経験すべき症状・病態・疾患、さらに各専門科で経験が求められる疾患・病態を掲げた。しかし、あまりにも多くの項目を教えすぎる弊害も憂慮される。各科の指導医は、レポートの課題と問題点を文献で当たる方法を教えるとともに、「最高の教育は患者自身が与えてくれる」ことを理解できるよう、研修医の感性を磨く指導に努める。

３．　プログラムの最初の１週は必ず新人職員研修に他の職種とともに参加する。その後１年次、２年次の最中に、内科系 27 週、麻酔科 5 週、外科 5 週、小児科 5 週、産婦人科 5 週、精神科 4 週、地域医療 4 週、選択科 48 週をローテーションする。精神科、地域医療は必ず２年次での研修とするが､その他は１年次､２年次どちらでも構わない。選択科での研修では、総合的な診療能力を一層高めるために、当院の病理診断科・放射線科での研修を特に推奨する。

４．　救急医療は、麻酔科を 5 週間ローテートし、その他の部分は当直医のバックアップ体制下での月４回程度の当直業務を以て充てるものとする。
　救急医療の 12 週のうち、4 週は麻酔科を算入する。残り 8 週については、夜間の救急当直業務 20 回を算入する。救急当直業務は、夜勤体制としており、夜勤（16:30～9:00）終了後は、帰宅することとする。
※当院の勤務体系とローテーションの関係は次頁を参照すること。

５．　一般外来研修は、地域医療 4 週と並行研修として行う。また、内科、消化器内科、循環器内科が週 1 ローテーションで行っている初診外来や外科、小児科での外来での研修も、コンサルテーションや医療連携など臨床問題を解決する能力の向上に寄与する。

（参考）　当院の勤務体系（二交代制）とローテーションについて

〈二交代制〉
二交代制とは、夜間勤務の中でも 24 時間を二つの時間帯に分けて勤務する勤務形態であり、当院では、日勤：8:30 ～ 16:45、夜勤：17:00 ～ 翌 9:00 の二交代制である。
ただし、夜勤の前 8:30 ～ 17:00 は時間外勤務で外来診療等を行うことから、看護師のような完全な二交代ではない。

例：内科ローテーション中、木曜日に当直に入る場合

木 8:30　　木 17:00　　金 翌 9:00

外来・病棟等	救急外来	以降休み
内科研修	救急研修	―

上図のような勤務体系では、週に 4 日の内科研修、週に 2 日の救急研修となる（うち、1 日分は時間外勤務）。なお、金曜日及び土曜日に救急外来に入る場合には、週に 5 日のカウントが可能である。

そのため、内科ローテーションは 27 週行い、そのうち 24 週を内科研修として、外科・麻酔科・産婦人科・小児科ローテーションは 5 週行い、うち 4 週を当該科の研修としてカウントする。

救急当直は夜勤約 20 回を以て、40 勤務分すなわち 8 週の研修修了と充てる。選択科が 48 週あるため、選択科ローテーション中の約 2 週に 1 回程度の救急外来研修で修了可能である。

以上をまとめると、実際に所属する科のローテーションは、以下の例のとおりとなる。

年次	週次	週数	所属診療科	修了診療科	修了週数	備考
1	1	1	内科	―	―	オリエンテーション
	2～10	9	内科	内科	8	
	11～19	9	消化器内科	内科	8	
	20～28	9	循環器内科	内科	8	
	29～33	5	外科	外科	4	
	34～38	5	小児科	小児科	4	
	39～43	5	産婦人科	産婦人科	4	
	44～48	5	麻酔科	救急医療	4	
	49～52	4	選択科	救急医療	1	夜勤 20 回を以て
2	1～4	4	地域医療	地域医療	4	
	5～8	4	精神科	精神科	4	
	9～52	44	選択科	救急医療	7	夜勤 20 回を以て

Ⅲ　プログラム責任者と参加施設

１．プログラム責任者

中津市立中津市民病院　副院長兼緩和ケアセンター長　福山　康朗
所在地　　〒871-8511　大分県中津市大字下池永 173 番地
TEL　0979-22-2480　　FAX　0979-22-2481

２．基幹施設名

中津市立中津市民病院
（基幹型臨床研修病院　平成 15 年 10 月 27 日指定）

・病床数　250 床　　・医師数　72 名　　・指導医師数　19 名
・標榜診療科目　28 科

内科	糖尿病・内分泌内科	心療内科	神経内科
呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	血液内科
腎臓内科	小児科	外科	消化器外科
内視鏡外科	乳腺外科	肛門外科	呼吸器外科
小児外科	泌尿器科	整形外科（休診中）	脳神経外科
心臓血管外科	産婦人科	耳鼻咽喉科（休診中）	放射線科
麻酔科	病理診断科	歯科口腔外科	リハビリテーション科

専門医、認定医等修練施設の認定

認定施設	認定日
日本外科学会外科専門医制度修練施設	2002 年 12 月 01 日
呼吸器外科専門医制度関連施設	2002 年 05 月 23 日
日本消化器外科学会専門医修練施設	2001 年 12 月 12 日
日本がん治療認定医機構認定研修施設	2007 年 11 月 01 日
日本乳癌学会認定施設	2004 年 01 月 01 日
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設　拠点教育施設	2005 年 12 月 05 日
日本医学放射線学会専門医修練機関	2004 年 07 月 01 日
日本 IVR 学会専門医修練施設	2007 年 02 月 02 日
臨床研修病院	2003 年 10 月 27 日
日本小児科学会小児科専門医研修施設	2005 年 04 月 01 日
日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設	2008 年 04 月 01 日
日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医暫定認定施設	2004 年 04 月 01 日
日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医暫定研修施設	2006 年 04 月 01 日
臨床修練病院	2006 年 10 月 19 日
日本消化器内視鏡学会指導施設	2007 年 12 月 01 日
マンモグラフィ検診施設	2008 年 07 月 01 日
日本消化器病学会認定施設	2009 年 12 月 02 日
日本病理学会研修登録施設	2010 年 04 月 01 日
日本麻酔科学会　麻酔科認定病院	2011 年 07 月 01 日
日本産婦人科学会専門医制度　専攻医指導施設	2011 年 10 月 01 日
日本内科学会認定教育関連病院	2011 年 08 月 01 日
日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働施設	2012 年 04 月 01 日
日本脳卒中学会専門医研修教育病院	2014 年 01 月 01 日
日本肝臓学会教育関連施設	2016 年 04 月 01 日
日本病院総合診療医学会認定施設	2017 年 04 月 01 日
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士認定教育施設	2017 年 04 月 01 日
日本アレルギー学会教育研修施設	2017 年 07 月 01 日
日本小児神経学会認定研修施設	2017 年 11 月 01 日
特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加施設	2018 年 03 月 06 日
日本肝臓学会認定施設	2018 年 04 月 01 日
日本口腔外科学会認定研修施設	2018 年 10 月 01 日
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会実施施設	2018 年 12 月 01 日
日本膵臓学会認定指導医指導施設	2019 年 01 月 01 日
日本臨床腫瘍薬学会がん診療病院連携研修病院	2021 年 03 月 01 日
日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設	2021 年 10 月 01 日
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2022 年 04 年 01 日

３．プログラムに参加する施設

①医療法人 向心会 大貞病院　　（協力型臨床研修病院　精神科分野）
院長　　向笠　浩貴
所在地　〒871-0157　大分県中津市大字中原 8 番地
TEL　0979-32-4512　　FAX　0979-32-7255
・病床数　144 床　　・医師数　３名　　・指導医師数　２名

②大分県北部保健所　　（研修協力施設　保健・医療行政分野）
所長　　山下　剛
所在地　〒871-0024　大分県中津市中央町 1-10-42
TEL　0979-22-2210　　FAX 0979-22-2211

③中津市国民健康保険津民診療所　　（研修協力施設　地域医療分野　一般外来分野）
所長　　酒見　久哲
所在地　〒871-0413　大分県中津市耶馬溪町大字大野 950 番地 2
TEL　0979-54-2035　　FAX　0979-54-2035
・医師数　１名　　・指導医師数　１名

④中津市国民健康保険槻木診療所　　（研修協力施設　地域医療分野　一般外来分野）
所長　　樗木　浩朗
所在地　〒871-0701　大分県中津市山国町槻木 1039 番地 1
TEL　0979-64-2024　　FAX　0979-64-2244
・医師数　１名　　・指導医師数　１名

⑤中津市医師会総合健診センター
（研修協力施設　地域医療分野　保健・医療行政分野）
医長　　冨重　辰幸
所在地　〒871-0162　大分県中津市大字永添 2110-8
TEL　0979-22-0993　　FAX　0979-24-1486
・医師数　１名　　・指導医師数　１名

⑥大分県立病院　　（協力型臨床研修病院　産婦人科分野）
院長　　佐藤 昌司
所在地　〒870-8511　大分県大分市大字豊饒 476 番地
TEL　097-546-7111　　FAX　097-546-0725
・病床数　610 床　　・産科医師数　４名　　・指導医師数　２名

⑦大分大学医学部附属病院　（協力型臨床研修病院　選択科）
地域医療学センター　教授　　宮崎　英士
所在地　〒870-8511　大分県由布市挾間町医大ヶ丘１丁目１番地
TEL　097-586-5205　　FAX　097-586-5206
・病床数　618 床　　・耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師数　12 名
・指導医師数　７名

⑧新行橋病院　　（協力型臨床研修病院　脳神経外科分野）
院長　　正久　康彦
所在地　〒824-0026　福岡県行橋市道場寺 1411
TEL　0930-24-8899
・病床数　246 床　　・脳神経外科医師数　４名　　・指導医師数　１名

⑨宇佐中央内科病院　　（研修協力施設　地域医療分野　一般外来分野）
院長　　徳光　陽一郎
所在地　〒872-0032　大分県宇佐市大字江須賀 4046-1
TEL　0978-38-5200
・病床数　48 床　　・医師数　5 名　　・指導医師数　0 名

⑩佐藤第一病院　　（研修協力施設　地域医療分野　一般外来分野）
院長　　中原　成浩
所在地　〒879-0454　宇佐市大字法鏡寺 77 番地の 1
TEL　0978-33-4918
・病床数　130 床　　・医師数　14 名　　・指導医師数　2 名

⑪大分丘の上病院　　（研修協力施設　精神科分野）
院長　　帆秋　善生
所在地　〒879-7501　大分市大字竹中 1403
TEL　097-597-3660
・病床数　140 床　　・医師数　7 名　　・指導医師数　0 名

⑫ANS 皮膚科クリニック　　（研修協力施設　選択科）
院長　　里見　典子
所在地　〒871-0013　大分県中津市金手１０番地１３
TEL　0979-22-1241
・医師数１名　・指導医師数　1 名

４．指導責任者および指導医数

中津市立中津市民病院指導責任者

①　呼吸器外科	福山　康朗 副院長兼緩和ケアセンター長 日本呼吸器外科学会専門医 日本外科学会外科専門医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 日本がん治療医機構がん治療認定医・暫定教育医 日本サプリメントアドバイザー認定機構サプリメントアドバイザー認定

	緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 H22 プログラム責任者養成講習会 H15 国立保健医療科学院指導医養成講習受講済
指導医数	１名
② 外科	**山﨑 宏司** **診療部長兼主任外科部長兼呼吸器外科部長兼救急科部長** **日本外科学会専門医・指導医・認定医** **日本呼吸器外科学会専門医・指導医** **日本がん治療認定機構がん治療認定医** **R2 プログラム責任者養成講習会**
指導医数	４名
③ 内科・一般外来	池田　元彦 内科部長
指導医数	０名
④ 消化器内科	安部　雄治 日本消化器内視鏡学会　専門医 日本消化器病学会　専門医 日本ヘリコバクター学会　ピロリ菌感染症認定医 日本肝臓学会　認定肝臓専門医 日本消化管学会　胃腸科専門医 日本内科学会　認定内科医
指導医数	1名
⑤ 循環器内科	久米　治 循環器内科部長 日本内科学会認定内科医 H29 九州大学病院医師臨床研修指導医講習会 日本心血管インターベンション治療学会認定医
指導医数	１名
⑥ 小児科	**福島　直喜** 小児救急センター長 日本小児神経学会専門医
指導医数	３名
⑦ 産婦人科	松本　治伸 周産期医療センター長兼産婦人科部長 日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本専門医機構産婦人科専門医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 日本母体救命システム普及協議会インストラクター H22 大分県医師臨床研修指導医講習会 母体保護法指定医
指導医数	１名
⑧ 麻酔科	浅井　信彦

	麻酔科部長 日本麻酔科学会専門医、麻酔科標榜医 H26 九州大学病院医師臨床研修指導医講習会
指導医数	2 名
⑨　放射線科	日高　啓 副院長兼放射線科部長 日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 指導医 検診マンモグラフィ読影認定医(AS) 肺がん CT 検診認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器がん検診学会消化器がん検診認定医 PET 核医学認定医 日本消化器内視鏡学会専門医 H17 九州大学病院医師臨床研修指導医講習会
指導医数	１名
⑩　泌尿器科	元　貴彦 泌尿器科部長 日本泌尿器科学会指導医・専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医数	１名
⑪　脳神経外科	古賀　広道 脳神経外科部長 日本脳神経外科学会専門医 九州大学病院医師臨床研修指導医講習会受講済
指導医数	１名
⑫　心臓血管外科	漆野　恵子 心臓血管外科部長 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構専門医 日本外科学会専門医 日本脈管学会　専門医
指導医数	0 名
⑬　病理	山本　一郎 病理診断科部長 日本病理学会認定医専門医 日本病理学会専門医(新専門医制度) 日本臨床細胞学会細胞診専門医 R3 九州大学病院医師臨床研修指導医講習会
指導医数	１名
⑭　救急医療	**山﨑 宏司** **診療部長兼主任外科部長兼呼吸器外科部長兼救急科部長** **日本外科学会専門医・指導医・認定医**

	日本呼吸器外科学会専門医・指導医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 R2 プログラム責任者養成講習会
指導医数	１名

医療法人向心会大貞病院指導責任者

①　精神科	向笠　浩貴 院長 精神保健指定医
指導医数	２名

大分県北部保健所指導責任者

①　保健・医療行政	小野　重遠 所長

中津市国民健康保険津民診療所指導責任者

①　地域医療 一般外来	酒見　久哲 所長

中津市国民健康保険槻木診療所指導責任者

①　地域医療 一般外来	樗木　浩朗 所長

中津市医師会総合健診センター指導責任者

①　保健・医療行政	冨重　辰幸 医長

大分県立病院指導責任者

①　産婦人科	宇都宮　徹 院長
指導医数	５名

大分大学医学部附属病院指導責任者

①　耳鼻咽喉科・頭頸部外科 指導医数	平野　隆 教授 ８名

新行橋病院指導責任者

①　脳神経外科	正久　康彦 院長
指導医数	１名

宇佐中央内科病院指導責任者

① 内科	徳光　陽一郎 院長
指導医数	0 名

佐藤第一病院指導責任者

① 内科	**中原　成浩** 院長
指導医数	2 名

大分丘の上病院指導責任者

① 精神科	帆秋　善生 院長
指導医数	0 名

ANS 皮膚科クリニック指導責任者

① 内科	里見　典子 院長
指導医数	1 名

Ⅳ　プログラムの管理運営体制

プログラムの管理、運営は中津市立中津市民病院と協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設の代表者をもって組織した合同研修管理委員会が行う。

1．研修実施責任者　福山　康朗　（副院長兼緩和ケアセンター長兼呼吸器外科部長）
2．研修管理委員会（構成員と委員会の役割等）

委員会役職名	氏　　名	院内役職名
委員長	福山　康朗	中津市立中津市民病院　副院長　兼　緩和ケアセンター長
委　員	折田　博之	中津市立中津市民病院　院長
〃	日髙　啓	中津市立中津市民病院　放射線科部長
〃	福島　直喜	中津市立中津市民病院　小児救急センター長
〃	吉賀　攝	大分県医師会　常任理事
〃	向笠　浩貴	医療法人向心会大貞病院　院長
〃	小野　重遠	大分県北部保健所　所長
〃	冨重　辰幸	中津市医師会総合健診センター　センター長
〃	徳光　陽一郎	特定医療法人　徳和会　宇佐中内科病院　院長
〃	中原　成浩	特定医療法人　明徳会　佐藤第一病院　院長

〃	帆秋　善生	大分丘の上病院 院長
〃	大森　啓嗣	中津市医師会事務局長
〃	松本　治伸	中津市立中津市民病院　周産期医療センター長兼産婦人科部長
〃	山﨑　宏司	中津市立中津市民病院　診療部長兼主任外科部長兼呼吸器外科部長兼救急科部長
〃	古賀　広道	中津市立中津市民病院　脳神経外科部長
〃	久米　治	中津市立中津市民病院　循環器内科部長
〃	山本　一郎	中津市立中津市民病院　病理診断科部長
〃	浅井　信彦	中津市立中津市民病院　麻酔科部長
〃	矢野東　和代	中津市立中津市民病院　看護部長
〃	冨田　珠美	中津市立中津市民病院　薬剤科部長
〃	川鶴　幸司	中津市立中津市民病院　事務部長
事務局	金澤　洋之	中津市立中津市民病院 総務係主幹（総括）
〃	大月　とも	中津市立中津市民病院 総務係

Ⅴ　定員、収容定員および選抜基準

１．研修医定員数（各年次）

１年次　７名
２年次　６名
合計　　13 名

２．選抜方法および選抜基準

研修医の応募手続（応募先、必要書類、選考方法等）

応募先：〒871-8511　大分県中津市大字下池永 173
中津市立 中津市民病院　TEL 0979-22-2480

必要書類：履歴書　卒業（見込）証明書　成績証明書

選考方法：書類審査・筆記試験・面接により決定する。

応募・選考日：詳しくは、当院ホームページをご覧下さい。
（URL：https://nakatsu-hosp.jp/）

３．公募の有無および研修プログラムの公表方法

すべて公募とし、研修プログラムの概略はインターネットで公表する。

Ⅵ　教育課程

１．研修目標（基本的目標）

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。

２．教育課程

内科系（内科・消化器内科・循環器内科)、救急部門（麻酔科を含む。)、外科、小児科、産婦人科を必修化とし（１年次、２年次どちらでもかまわない)、２年目は地域医療、精神科を必修とする。選択科では、「中津市民病院」での研修が主であるが、保健・医療行政として「大分県北部保健所」での研修も可能である。放射線科はかなりの高いレベルの読影が学べる環境にあるため、2 年次の選択科では放射線科の所属を奨める。また、診断病理学は臨床医学の重要な位置を占めているので、CPC のレポート作成とは別に１か月間の病理診断科の所属も奨める。「研修医の強みは研修医であること」。研修期間には、その未完成さを遺憾なく発揮し、“模倣と問い”によって初期研修プログラムをマスターしていただきたいが、同時に、医学部学生の臨床実習などにも携わり、教えることで自らの知識を確固たるものにしてもらう。

３．研修方式

スーパーローテート方式とし、研修期間は２年間とする。

４．研修期間割・研修医の配置

【１年次】

<table>
<tr><td rowspan="2">新人
職員
研修
１週</td><td>内科 27 週　外科 5 週
麻酔 5 週　産婦 5 週
小児 5 週　選択 48 週　のうちいずれか</td></tr>
<tr><td>救　急　当　直</td></tr>
</table>

（ローテは順不同）

【２年次】

<table>
<tr><td rowspan="2">地域
医療
4 週</td><td rowspan="2">精神科
4 週</td><td>内科 27 週　外科 5 週
麻酔 5 週　産婦 5 週
小児 5 週　選択 48 週 のうちいずれか</td></tr>
<tr><td>救　急　当　直</td></tr>
</table>

（ローテは順不同）

当院の研修プログラムは、１年次及び２年次において、基本的には前記の図のように実施する。選択科では、当院の病理診断科・放射線科での研修も可能である。当直医のバックアップ体制下で月４回程度当直業務を行い、救急研修を補う。

５．指導体制（指導方法含む）

①一般診療

指導責任者ならびに指導医が監督・指導を行う方式で実践的な研修を行う。小児科については小児科医７名体制のもと、小児科医療全般の研修教育体制を充実させる。各科の指導医は、年１回以上の学術集会等での症例報告とともに論文執筆を指導する。

②救急医療

各科のバックアップ体制下に月４回程度当直業務を行い、救急研修を補う。２年間を通じて救急外来と当直業務において補うことで、２ヶ月間の救急部門での研修期間に相当する。救急患者の 80%は一次救急であり、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるには、特に優れている。

③病理診断科

CPC におけるレポート作成が必修となるが、研修期間中随時、病理研修室でベテラン病理医による指導を受けるようにするとともに、研修管理委員会としては、選択科の期間に１ヶ月間の病理診断科所属を奨めるものである。

④精神科

精神科病院での研修の他に、内科、外科、産婦人科、小児科等の一般科においても、メンタルヘルスを重点にうつ病等の診断技術を研鑽し、将来一般医となっても選択的セロトニン取り込み阻害剤（SSRI＝Selective Serotonin Reuptake Inhibitors）等の処方ができるようにし、激増する自殺者、自殺未遂者、自殺念慮者への対策強化に関わられるようにする。傾聴技術を磨くために、週に半日間は医療ソーシャルワーカー（MSW＝Medical Social Worker）とともに医療相談室への配置を義務づける。

⑤地域医療

へき地医療機関や健診センターに勤務し、多くの人によって地域医療や地域保健事業が支えられていることを理解し、都会から離れた地域中核病院での研修を特色あるものとする。

Ⅶ　研修の記録および評価方法

行動目標と経験目標の基本的身体診察法は、自己評価と指導医評価をＡ～Ｄ（Ａ：優　完全に目標に達した。　Ｂ：良　不完全だが目標に達した。　Ｃ：可　目標に近いが達していない。　Ｄ：不可　目標に全く達していない。）の四段階評価する。

経験目標の二段階評価は、経験（有　無）ならびにレポート提出（有　無）として、各科ローテート時に随時チェックし、未経験項目が自動的にわかるようにするとともに、重複経験項目がカウントできるようにする。研修評価は EPOC を利用して行う。

Ⅷ　プログラム修了の認定

研修管理委員会が、研修医の自己評価と指導医評価から、目標の達成度を調査・吟味し、総合的に評価する。その結果に基づき、院長が研修修了の認定を行い、研修修了証を交付する。

Ⅸ　プログラム修了後のコース

研修期間修了後は、研修管理委員会の評価をもとに、研修医の要望に応じて各大学病院等へ推薦状を書くことも可能である。また、卒後３年目以降は、定員の範囲内においてレジデントとしてではなくスタッフとしての採用も可能である。

X　研修医の処遇（身分・給与・宿泊施設の有無、社会保険の有無等）

１．身　分　　非常勤医師
２．保　険　　大分県市町村職員共済組合、厚生年金、労災保険、雇用保険
３．住　宅　　医師宿舎（1K）　家賃:8,000 円
　　官舎の空きがない場合　当院契約の賃貸物件（家賃 8,000 円～）
４．報　酬　　１年次　月額　356,336 円
　　２年次　月額　361,208 円
　　その他　時間外手当、夜勤手当　ほか
５．勤務時間　　日勤　8:30～16:45
　　夜勤 17:00～翌 9:00
　　時間外勤務有り
６．休　暇　　有給休暇　１年次 10 日間
　　２年次 11 日間
７．当　直　　４回程度／月
８．研修医室　　１室
９．健康診断　　年１回実施
10．医師賠償責任保険　　病院において加入
11．食　事　　食堂あり（有料）
12．学術集会等への公費負担
　　年２回までの参加は公費負担によって参加のみが可能
　　症例発表等は回数制限無く公費負担で可能であり、
　　年１回以上は症例発表等を行い、症例呈示方法の研鑽を行う
13．兼業の禁止　兼業については、初期臨床研修医として、また会計年度任用公務員
　　として禁止されている

臨床研修の到達目標

【到達目標】

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1．社会的使命と公衆衛生への寄与社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2．利他的な態度患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3．人間性の尊重患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4．自らを高める姿勢自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1．医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。

④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。

⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2．医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

①頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。

③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

３．診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。

③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

４．コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

５．チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

②チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

６．医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

③医療事故等の予防と事後の対応を行う。

④医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

７．社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。

③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

④予防医療・保健・健康増進に努める。

⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

８．科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

①医療上の疑問点を研究課題に変換する。

②科学的研究方法を理解し、活用する。

③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

９．生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

②同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。

③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

１．一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

２．病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

３．初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

４．地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。